

## テーマ「生き残るためのブランド力」

(グループ E-1) ベガのアルタイトル

### 課題認識：

テーマ設定に際し、まずそれぞれの大学でどのような課題があるのかを出し合った。様々な課題が出される中「系列校（附属高校）からの進学者が減っている」「大学の知名度が低い」などに着目し、更なる課題認識を探った。その結果、「大学のユニバーサル化」により大学の進学率が増加、大学全入時代を迎え、どの大学も同じような学部があるため、どこの大学でもよい、また大学の大きな特色である「建学の精神・教育の理念」が希薄化し、大学の特色が分かりにくくなっていることから、自分にとって好条件（立地、知名度など）を基準に大学を選択するような傾向になった、などの意見がだされた。

それらの意見から大学の「ブランド力」が低下しているとの結論に至った。そこでこれからの時代「ブランド力」がなければ生き残ることはできないと考え、「生き残るためのブランド力」をテーマにして解決策を探ることになった。

### 討議内容：

昨今の大学を取り巻く状況について、各大学の問題点を列挙し、学内および学外における問題についての細分化作業を行った。それぞれの問題点が挙がる中で、次第に共通するものが見えてきた。附属高校からの進学率低下や大学自体の知名度の低下、大学の趣旨（強み）を対外的に伝えきれておらず、大学と学生、大学と受験生、大学と同窓生、大学と企業、それぞれの両者間での認識が一致されず、相互理解が出来ていない状態、すなわち“すれ違い”が起きているということが明らかとなった。

実際に大学が生き残るために何をしなければならないのかを考えた際、大学が力を入れるサービスを本当に求める学生に提供すること、企業に対してどのような学生が育つかをアピールすることを考えた。そこで学生を筆頭に、大学に関係する皆がハッピーになるためにはどうすればよいか、それらが解決出来ればおのずと皆が自信・誇りを持てるようになり、最終的にはブランド力の向上につながるのではないかと結論に至った。

そこであらゆる情報を、必要な人たちに正しく伝える方法を検討する必要があるということで、従来のホームページとは違った、より身近に感じてもらえるような情報の発信手段として Web コミュニティーの構築を提案することになった。

### 提案内容：

大学側が提供する信頼性のある Web コミュニティーとして、『D. O. A.』を考案した。このシステムは、在学生・教職員はもちろんのこと、OB・OG、企業関係者を始め、広く一般に公開される（対象によって閲覧内容の制限は設定）。これは、既存の HP サイトやブログ等とは異なり、“口コミ”で情報発信をするという点が特徴的である。『D. O. A.』を閲覧することによって、受験生は、在学生の生の声を聞くことができ、既存の HP のような、大学側にとっていわば都合のよい情報のみならず、ありのままの姿を知ることができる。さら

に、大学側は在学生の客観的な評価を把握することができ、よりよい大学運営のために改善すべき点を知ることができる。企業関係者は、その大学の学生の特徴をつかむことができる、といったようなメリットがある。

システムの内容としては、授業情報、ゼミ情報、就職情報、クラブ・サークル情報、施設・設備情報、図書館蔵書検索システムなど学生に密接なシステムの他にも、公開講座の情報、地域情報、校友情報、教員の研究成果、受験生のQ&Aコーナーなど、多岐に渡って掲載することとした。

なお、これだけでは既に同様のシステムが他にも存在するが、画期的な部分として、授業情報などをロコミ形式で掲載していくことにより情報を数値化し、ありのままの意見がリアルに見えるようにし、さらに学生には実名登録をさせて責任を持って書き込みをさせる工夫も行う。ただし、個人情報保護を確保すべくアクセス権によって閲覧制限を設け、学内者が見ると個人名が表示されるものでも、学外者が見た場合はイニシャル表記や所属学科のみが表示されるようにするなどの配慮も行う。

このシステムの導入により学生がキャンパスライフを快適にすごせるようになるのはもちろんのことながら、大学の一員だということを明確化させることにより誇りを持たせたり、授業情報から学生が考えていた講義かどうかが判断できて中途退学率の減少に繋げていくこともできる。他にも企業の方へのアピール材料になったり、社会の先輩でもある校友の方たちとの交流によって、就職への心構えが早期から能動的にできたり、受験生にとっても大学選びの良い指標となることによって入学辞退率の提言につなげ、また何より、問題となっている「大学の趣旨（強み）」をアピールしていくことができるのである。

その結果、図1のような大学を取り囲む強固なネットワークを形成していくことができ、おのずと最終的にはブランド力を上げていくことができる、すなわちこれから先も学生、校友をはじめその他さまざまな人たちから愛され、生き残っていく大学となるのである。そして、現状に満足せず時代の流れに併せてシステムの更新を行っていき、常に稔りあるものにしたいたいと考える。

図1 新システム『D.O.A.』について

